令和４年度　名古屋市立藤森中学校教育目標・努力点

Ⅰ　教育目標

教育基本法、学校教育法の精神に基づき、「人間性豊かな青少年の育成」を目指して知・徳・体の調和のとれた人格の形成に努める。

○　真理を探究する態度を養う
○　豊かな人間性を培う
○　たくましい心と体を育てる

Ⅱ　令和４年度の努力点と推進計画

1　研究のテーマ　「広げよう笑顔　育てよう心」
－　「対話的な活動」を通じて「尊重」する力を高める　－

2　研究テーマ設定の理由

(1) 本校生徒の実態

本校は、藤が丘周辺にあり、保護者の転勤による転出入が多い地域である。保護者は、学校からの教育活動に関するお願いに対して、丁寧に協力してくれる。また、家庭の教育水準は高く、我が子の学力への関心や期待は大きい。

生徒は、基本的には落ち着いた学校生活を送っている。行事に対しても、高い企画力や運営力をもっている。一方で、友人関係や、理想と現実のギャップに悩む生徒もいる。

これは、一つの事象に対するものの見方や考え方が狭く、考えの広がりや深まりができていなかったことが考えられる。また、相手の立場や状況などを考えずに発言、行動したり、逆に、相手を気遣いすぎて自分の本当の気持ちを伝えられないことがあった。さらに、先を見通さず、その場をしのぐための判断を行っている現状もあった。

(2) これまでの実践

令和２年度より、「最適解を考える活動」の取り組みを行い、限られた考えで満足するのではなく、様々な考えに気付き、それらをもとに考えを深め、自らの成長を感じられるように実践を行ってきた。

最適解を考える活動　…①　考える切り口となる「視点」を焦点化することで、考えを広げさせる ②　様々な考えを比較・検討して生徒の考えを深めさせる

その結果、どのような言葉や表現を使うと相手に伝わり易いかを考え工夫する姿や、聞き手の立場を考えて発表する姿が見られるようになった。そして、言葉が人の心に与える影響について気付き、自分の言葉を見直したり、改善しようと考えたりして、言葉の力を実感している様子も見られた。また、様々な角度、視点、立場などから話をしていただいたことから、子どもたちの視野が広がったり、自分の考え方と比較をして考え方が変わったり、深まったりできるようになってきた。

(3) 今年度努力点のねらいと基本的な考え方

名古屋市学校教育の努力目標である「ともに学び　自分らしく生きる」を踏まえ、今年度はこれまで行ってきた「最適解を考える活動」の取り組みを生かし、「対話的な活動」を通じて尊重する力を高めたい。尊重する力とは、以下の通りである。

・相手の立場に立って物事を考える力。 ・目的や目標の共通理解を図り、他者と協働する力。 ・意見や理解の違いを解決する力

上記の力を高めることで、自らとは異なる考えや立場に気づき、理解しようとする姿勢を育てていきたい。そして、問題やトラブルが減少したり、物事に対して、よりよい方向性を見いだしたりできるようになることを目指したい。その積み重ねが、生徒にとって、自分らしく学校生活を送ることにつながり、「笑顔が広がり、心が育つ」学校になっていくと考える。

3　実践内容

生徒の学校生活全般において、尊重する力を高めるための「対話的な活動」を取り入れた指導計画を立てる。

(1)　学習活動を通して

○　背景や特徴などを捉えたり、他の考えを聞き自分の考えと比較したり、自分の考えをわかりやすく伝えたりする活動を積極的に取り入れる。

○　ＩＣＴの活用を通じ、生徒一人一人の進度や課題、関心に応じた個別最適・協働的な学びの提供に努める。

○　考えの広がりや深まりを大切にした授業展開に努める。

(2) 道徳・特別活動等を通して

○　失敗を成功への一歩と前向きに捉え、自己肯定感をもてるように努める。

○　集団生活の中の基本的ルールについての理解を深めるとともに、他人を思いやる心・公徳心を高め、また、他の気持ちや考えを受け入れる姿勢を身に付ける。

○　学校行事において、主体的な企画・運営・参加の場を広げることで、他と協力しながら進んで参加し、最後までやりぬく気持ちや体力を身に付けられるように努める。

(3) 人と人との関わりを通して

○　自らと異なる見方や考え方に気付くことを通して、相手や多様性への尊重ができるように努める。

○　自分の気持ち・思いを他人に伝えることができるように努める。その第一歩として、「挨拶」を推進する。

○　生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）の育成を目指した教育活動の推進に努める。